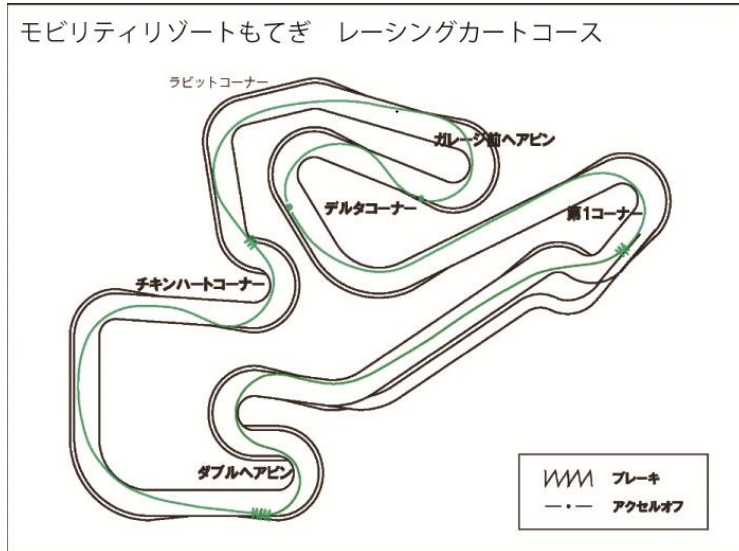


## 初めてレースに挑戦するドライバーへ

レーシングカートでは「誰でも気分はレーサー！」をモットーに、レースイベントでも初挑戦の方もウェルカムの姿勢で開催しています。しかし、気持ちだけが先行してレース中のクラッシュやトラブルが起きてしまうことしばしば。レース初挑戦の方も、もちろんベテランの方も、予備知識を持ってレースに臨みましょう！

### ①レコードラインでの走行

- ・サーキット走行においては、レコードラインを走行する車両・または前を走行する車両にコーナー(カーブ)へ進入する優先権があります。
- ・追い越しを仕掛ける際の多くは、レコードラインから外れて仕掛けることになります。バトル中は優先権を持つ車両へ衝突・妨害しないように注意してください。



レコードライン：サーキットをでき得る限りより速く、かつ安全に走るための理想的な走行ラインのことを指します。

### ②集団でのブレーキング

タイムアタックとレースではブレーキの使い方が変わってきます。

レース中もライバルより速く走るために限界の走行でラップタイムを縮めたい

ところですが、コーナー進入時に集団の中でのフルブレーキングは禁物です。

レースでは全員が同じタイミングでブレーキを踏んでいるわけではなく、バトルをしながらコーナーへ進入したりするため、周ごとに進入速度も変わってきます。

必ず何かしら不測の事態が起こるため、それに対応できるように余裕をもって

ブレーキングを開始する必要があります。

### ③ブロックライン

- ・車体をぶつけてブロックするのは危険行為ですが、ぶつければブロックはライバルへの牽制(けんせい)というテクニックとして認められます。
- ・例えばコーナー前のストレートでイン側に寄れば、相手は自分よりアウト側に行かなければなりません。そうすればコーナーへの進入でイン側を守ることができます。これがブロックラインです。後方のライバルを押さえこむことができます一方で、レコードラインで走れないためラップタイムが遅くなってしまうリスクがあります。ブロックラインを多用しすぎると前のライバルに置いて行かれてしまう場合が多いので、注意が必要です。



イン側をキープしてライバルを押さえこむ！

### ④ブレーキング勝負からの追い越し

- ◆インからのブレーキング勝負◆
- ・インから追い越しを狙う場合、ストレートで前のカートのイン側の走行ラインをとり、ブレーキングの開始をライバルより遅らせて前に出ましょう。しかし、ブレーキングが遅いということはコーナー出口でアウト側に膨れるということなので、走行ラインが交差してコーナー出口で抜き返される可能性もあります。(クロスライン)
- ・イン側から仕掛ける際は、前のカートの動きに要注意です。前を走るライバルがすでにコーナリングを開始しているところにブレーキングを遅らせて飛び込んでしまうと、自分の走行ラインを空けてもらえずに接触する可能性が高くなります。コーナーへ進入を開始する前の時点で並走状態に持ち込めるかどうか勝負のポイントとなります。



前のカートが先にコーナリングを始めてしまったら次のチャンスを待つ

#### ◆アウトからのブレーキング勝負◆

- ・アウトから追い越しを狙う場合、ストレートで前の車のアウト側のラインをとり、ブレーキングの開始をライバルより早めましょう。コーナー出口でライバルより早く加速の体勢に入れるため、直線でスピードが伸びて次のコーナーで勝負を挑めるようになります。また、前の車がブロックラインを多用している場合はクロスラインで一気に前に出ることも可能です。



前の車がイン側キープを意識しすぎていたらクロスラインのチャンス！

#### ⑤サイド・バイ・サイド(並走)

- ・サイド・バイ・サイドとは、コーナーやストレートで2台のカートが横に並んで走行することです。好バトルを演出する大きな要素となりますが、お互いに相手の走行ラインを残しながらバトルする高い技術が要求されます。
- ・横に他の車がいる場合は、走行ラインを必ず1台分開けて走りましょう。  
どちらかが前に出るまでは並走でのバトルを続けることとなりますが、横並びで走れるほど走行ラインに余裕が無い区間では、後から横に並んだ車両が後ろに下がりましょう。お互いに引き下がらないと、カートランドの一部区間(特にホームストレート)では非常に危険です！



並走時はお互いに1台分スペースを空けてクリーンにバトル！

### 【レース中のライバルとのバトルについて】

- ・相手にぶつけて追い越しをしたり、ぶつけて妨害・ブロックするというのは誰でもやろうと思えば簡単にできることですが、それを認めてしまうとレースになりません。いかに接触せずに追い越しできるか・ブロックできるかがドライバーのテクニックの見せどころなのです。
- ・どの順位を走行していても、目の前や背後にいるライバルドライバーとバトルを楽しんで最後に握手で終われるよう、紳士的な走りを心がけてレースを楽しみましょう！